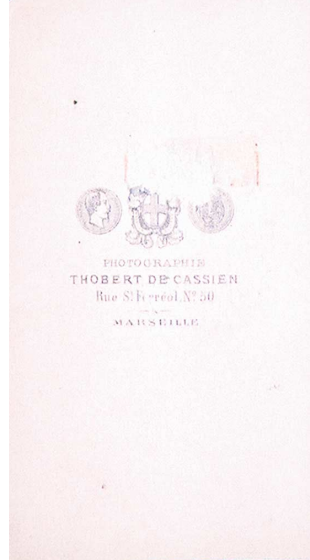


杉浦 讓^{ゆずる} (写真)



杉浦讓は、英国出張を命じられた前島密の後任として駅通権正となりました。

前島が郵便創業の文書を立案した直後の交代であったために、杉浦は決裁を受けるための立案文書の修正や、その後の具体的な郵便規則類の整備、郵便切手の製造、郵便役所及び郵便取扱所の設置、ポストの設置、職員の採用及び配置、郵便用品及び消耗品の調達など郵便開業に向けての準備作業を行い、明治4年3月1日（新暦4月20日）に郵便をスタートさせました。

杉浦は前島と同じく幕府出身で、前島より2ヶ月遅れで民部省改正掛に採用となっています。幕臣時代は外国奉行所に勤務し、文久3年（1863）に横浜鎖港使節随員、さらに慶応3年（1867）にパリ万国博覧会使節随員として2度フランスに渡っています。途中エジプトに立ち寄り、ピラミッドとスフィンクスを侍姿で最初に見た日本人となりました。

この写真は、1864年（30歳）の時にフランスのマルセイユで撮影したものです。

(表紙解説)

東海道五拾三次之内 沼津 黄昏図

満月の浮かんだ秋の黄昏に、木瀬川沿いの寂しい道を沼津の宿へと急ぐ旅人の姿が描かれている。旅人は母子連れの巡礼と天狗（猿田彦）の面を背負い四国の讃岐へと向かう金毘羅参りの行者である。